

<事業名> 屋台 deVR 認知症プロジェクト

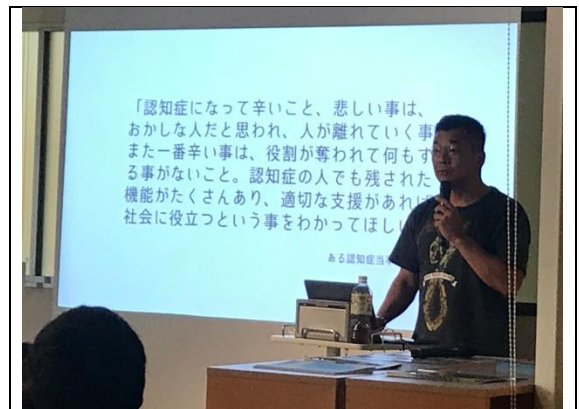
団体名	モバイル屋台 de 健康カフェ in 豊岡
所在地	豊岡市戸牧
代表者名	守本 陽一

事業内容	<p>団塊の世代が後期高齢者を迎える 2025 年問題を控え、超高齢社会へ突入する中、但馬圏域においても、高齢者割合は増加一途である。高齢者の増加によって認知症患者の増加、認知症患者の地域社会の受け入れが重要であり、厚生労働省は新オレンジプランを打ち出して方針を決定した。オレンジプランでは、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」とあるが、認知症カフェなど認知症当事者とその家族にとってサポートは充実しつつあるが、一般住民の理解度、受容度はそれほど高くない。これは本圏域でも同様である。そこで、医療と地域をコーヒーと屋台でつなげる活動行ってきたモバイル屋台 de 健康カフェ in 豊岡（以下本団体）が、VR を使った認知症の一人称体験を行うことで、認知症の理解と価値観の変化を目指す。当事者の体験をし、その後、体験の共有するための対話を行うことで、認知症に対する正しい理解と認識を深め、認知症に対する価値観を変化させるプロジェクトである。VR 認知症は、アルツハイマー型、レビー小体型などの認知症の人の体験を VR で経験することができるコンテンツであり、株式会社シルバーウッドがコンテンツを提供する。またモバイル屋台 de 健康カフェを出店させ、医療と地域住民の親睦を図る。</p>	
地域	① 但馬全体	
事業の効果	<p>① 団体（組織）内の効果 モバイル屋台 de 健康カフェ in 豊岡は、医療と地域をコーヒーと屋台でつなげる活動行ってきた。この活動の中で、対話によるまちづくりの中での医療の役割の再定義を行ってきたため、VR 認知症というコンテンツで対話することで、医療や健康についてより身近に感じてもらうことができた。また団体の認知度も向上し、講演していただいた下河原さんの話を聞いたことはスタッフにとってもよかった。</p> <p>② 地域への効果 上述の通り、VR 認知症というコンテンツで対話することで、医療や健康についてより身近に感じてもらうことができた。下河原さんの認知症、ケアに対するフラットな視点を地域住民、ケア従事者に知っていただくことができた。</p>	
事業経過	2018 年 5 月 2018 年 7 月 2018 年 9 月 2019 年 2 月	株式会社シルバーウッドに講演、VR 認知症体験会の依頼、会議 会議、準備等 VR 認知症体験会、下河原忠通さん講演会 支払い完了、事業終了

協働の相手方	株式会社シルバーウッド 一般社団法人ソーシャルデザインリガレッセ
今後の課題等	<p>〈事業を実施する上での課題〉</p> <p>① 団体（組織）の課題 当団体は、モバイル屋台 de 健康カフェ in 豊岡は、医療と地域をコーヒーと屋台でつなげる活動行ってきた。今回の体験会でより裾野を広げケアとまちづくりの活動を行ってきた。今後は飛び道具的な単発イベントのみならず、拠点をもち、ケアに関する相談を受ける場所などを設けられればと考えている。</p> <p>② 地域の課題 但馬においては、地域医療構想はほぼ完了している。量の確保は医療従事者、ケア従事者のみとなり、今後は質を上げていくフェーズである。認知症についても、認知症予防ではなく、現状誰でも認知症になりうるため、認知症になっても暮らしていける社会を構築していくことが重要である。ケアとまちづくりを行いながら、質の確保に貢献していく。</p> <p>〈31年度以降の事業計画〉 モバイル屋台 de 健康カフェの活動を続けながら、読書会、看取りの勉強会などの勉強会をしつつ、ケアとまちづくりの活動を行っていく。また上述の通り、拠点をもち、ケアに関する相談を受ける場所などを設けられればと考えている。</p>



2018年9月2日



2018年9月2日



2018年9月2日



2018年9月2日